

# アイソスの 回文かるた

かんりんく  
さんしやしん  
さくんりんか

か

か



first message from ISOS

\*回文=上から読んでも下から読んでも同音の文章。



## 官リンク 三者審査君臨か？

1年ほど前のことである。日比谷公園の松本樓のロビーで、中年の男が雨やみを待っていた。

男は長年勤めた会社をまもなく退職するが、次の就職先はまだ決まっていない。これまでの品質管理の業務経験を生かすため、品質審査員の資格は取っていた。しかし、自分を使ってくれる審査機関もコンサル機関も見つけることができないまま、今日に至っている。冒頭作者は「男が雨やみを待っていた」と書いたが、実はこの雨がやんでも、男にはこれといって行くあてもない。

ふと、2人の紳士が喫煙のためにロビーに降りてきて、立ち話を始めた。話の内容は偶然にもISO審査に関することのようにである。男は聞き耳を立てた。話ぶりからして、一方は自治体の担当者、もう一方は審査機関の担当者のようにである。自治体側は審査料金をまけると値切っている。審査側はこれ以上はまけられないと言っている。「でもね、タダ同然の値段で審査しますって言う所もあるんだよ」「それは大きな機関でしょう。組織が大きければ、1件分の審査料金くらいは簡単に吸収できますから」「自治体の審査をすると宣伝効果になると思うけどね」「それはそうですが、うちのような小さな機関ですと、いい審査員を集めるためには、審査員への手当も高くないと集まらないのです。ですから、なかなか審査料を下げるのは大変で・・・」

男は思った。「客は審査料をまけると言っている。審査側は審査員への手当の面でそれはできないと言っている。そして、俺はリストラされ、次の職を探している。こんなチャンスは二度とあるまい」

男は2人の紳士の前に進み出て、名刺を差し出した。そこそこ名の通った中堅企業の名刺だったので、2人とも「これは、どうも」と自分の名刺を差し出した。男は自分の考えを述べた。

「私どもがコンサルタントと審査員をご提供しましょう。自治体のお客様はコンサル料金だけをお支払いください。審査料はいりません。お客様からいただいたコンサル料はそっくり、審査機関であるあなた様にお渡ししますから、その費用で審査を行ってください。ただ、その時に条件があります。審査の際、チームリーダーをつとめる主任審査員はあなた様の機関から出していただき、他のメンバーの審査員は私どもから出させてください。いかがですか？」

2人の紳士は「ほおっ」とうなった。男の弁舌には説得力があり、論理に矛盾があるとは思えなかった。やがて男は、あり余る時間を使って、その自治体をコンサルし、一方で審査経験を積みたがっている審査員や審査員補から「審査参加費」を取って、審査チームに加えた。

「審査の代理店」— 雨やみを待っていた男は、自分の行方を見つけた。